

●しゃらくかい 写楽同会

令和2年5月31日 53

<http://3ban.nobody.jp/syaraku/syaraku.html>

投稿/投票宛先; kinuko_thompson@hotmail.com

© 2020 Sharakukai

皇月兼題「藤」 出題：読者FNさん

写真俳句



庭に咲く
藤色てっせん
今盛り

1 庭に咲く藤色てっせん今盛り



人去りて
なお優雅なる
藤の花

2 人去りてなお優雅なる藤の花

外出自粛要請の中、コロナ恐れず自分の仕事する藤の花。



義母残し
藤の鉢植え
今盛ん

3 義母残し藤の鉢植え今盛ん

足利フラワーパークにはそれは見事な藤が咲く。何年か前に義母がそこで買い遺した藤が、コロナ禍一色の今、見事な房を垂らして咲く。



4 昇り藤宙に翔び立つ数千基

那須高原にあるフラワーパークの見事なルピナス（和名：昇り藤）に圧倒されました。



5 藤や藤 陽を受けて今咲かんとぞ

十数キロ歩いた後この家のある村に辿り着いて、藤の花の見事なのにほれぼれし、疲れを忘れました。



6 街中に深山のごと藤の咲く

我が町のあるお宅には毎年見事な藤が咲きます。まるで深い山の中にいるようです。



7 近づきてやっと気づきし藤の花

藤棚のイメージしかなかったので、ちょっと新鮮でした。



8 むらさきの滝の如しや藤の花

藤棚から滝の流れるごとくに藤の花が垂れていました。



9 藤にほふ若き花房揺れもせず

前代未聞の年、異例の年と言われる中、藤は例年通りに咲く。盛りの前の若い花房に固さと傲慢さを感じた。

俳句



撮影：iSAMU

1 一人でコーヒータ暮れの藤の花

植えてから何年経っても咲いてくれなかった藤と、昔悪い男に待ちぼうけを食わされた記憶。

2 サヨナラの一筆箋に藤の花

別れの一行の文よりも、隅に印刷された藤の絵が記憶に残る…。

3 ステイホーム見ること叶わぬ藤の花

藤を見に行く事も出来ず、ステイホームはいつまで？

4 犬ほえるそっとゆれるよ藤の花

5 地に着くと思わず程の藤の房

地元の藤園で見た大きな藤の房を、藤を見るたびに思い出します。

6 藤の香や光源氏の恋乱る

藤の花から「源氏物語」の藤壺女御に発想を飛ばしました。

7 次々と風の撫でゆく藤の花

藤に風、月並みですが。

8 藤の下うすむらさきの雨しとど

北九州市の見事な藤のトンネルの写真を思い出し、その花が雨だれを思わせました。

短歌

準坊

目を閉じてジャズに浸るも
"ただいま"の
妻の一声至福の終わる

一人の時間に好きなジャズを聴くも・・・。



久芽

三密の犠牲になりし花祭り来ては駄目だと花切り取られ

あちこちで花祭りが開催されてますが、密になるというので残酷にも花が切られる所も。

北切雀

藤の芽を干して遊びの茶葉とせし幼き吾よはるかをはるか

生家の庭には藤棚がありました。藤の新芽は乾くとくると丸まって本当に茶葉のようにになりました。ヒバの葉を泥水につけ、乾いた土をまぶした「アジフライ」が得意料理でした。

川柳

準坊

空いた口塞がらないよアベノマスク

アベノマスクより一刻も早く医療崩壊を防ぐ手立てを・・・。

写真投稿

北切雀

イギリスでは藤は棚ではなく、建物に添って咲くのが一般的です。
写真は堀に這わせたご近所のお宅です。





大手鞠

八重桜



<< >>は作者コメント、* は読者コメントです。

* 綺麗な写真が多く、選ぶのに苦労しました。

写真俳句 投票数：33

一席 菜の花や耕人の鋤高々と 久芽（8 票）

<< 菜の花の時期になるといよいよ畑仕事は忙しくなります。>>



- * 「ウォーキングの歩幅が広がる」という俳句が先月出ましたが、これも同じ心情。自然に鋤が高々と上がるいい季節、収穫への思い。
- * 菜の花畑は季節の変わったことをはっきりとその鮮やかな一面の黄色で強烈に目に知らせてくれますね。寒さに縮こまって怠けていた仕事を思い出させてくれて、ありがたいやら焦るやら…。
- * 幾千年と、そのような人々の営みが繰り返されてきたのですね。
- * 田畑の土をすき返す農夫の力強い仕事リアルに感じられます。

* 春を待ちかねていた喜びが高々と振り上げられた鋤で感じられます。

佳作（令和2年4月号掲載順）



菜の花は咲けど向うに海のなく iSAMU

<< 海なし埼玉県のひがみです。>>

- * 菜の花の上に見える海は埼玉県人には羨ましい限りですね。
- * もと埼玉県人として気持ちがわかります。
- * 素直な感じがいいですね。
- * 広大な菜の花畑を大海になぞらえて、その先にある海の煌めきを想う。色と光を良く捉えています。



菜の花のオムレツと化す黄の匂ひ 池福楼

<< ふわふわした卵料理は春が美味しい。菜の花を見るとつい連想してしまう。>>

- * 思わず微笑んでしまった。こういう発想、連想は健康的で大好きです。
- * 確かにオムレツの色は菜の花色ですね。



ブロッコリ花芽に宿る太陽（ひ）のかけら 北切雀

<< 「ブロッコリ」は冬の季語ですが、菜の花の写真が撮れず、同じアブラナ科の茎ブロッコリを使いました。日本では「スティックセニョール」というそうでした。ちょっと驚きました。>>

- * 食べ物の句は美味しそうに詠むのが常道。まさに隅々まで陽を浴びて育った野菜の新鮮さを表しています。
- * 太陽のかけらとしたところがいい、さすがです。
- * 言葉使い参考になりました。

* 太陽のかけらが宿っているという発想が好き。

* 菜花にブロッコリも含まれているんですね、勉強になりました。食べずにおけばどんな花が咲くのかしら、食べずに自然の中に置いておいてあげたいなあ。

作者：自分が勝手に含みました（笑）。違う3店からの茎ブロッコリを咲かせようとしたのですが、どれも開花せず黄ばんで枯れました。畑では咲くのでしょうか、茎の食用化目的で開発された種だと思われます。

菜の花のかほり道づれ雲の行く 準坊

<< 長閑でのんびりとした春を詠いました。>>

- * 空を見上げて寝そべりたいですね。
- * まず、写真のバランス（3分の1が菜の花、3分の2が空と雲）と俳句の広がり方がステキにマッチングしていると思う。嗅覚に訴求して風景がはっきり想像できる。
- * 唱歌「朧月夜」を連想する句。霞がかかる空の向こうに山の端を望む。のどかな春ですね。
- * 写真と句がよくマッチしています。
- * 写真がいいですね。でも かほりと言うほどよい匂い??…。



菜の花や霊場恐山はるか 昼寝覚

<< 陸奥湾の向こうにはイタコの口寄せで有名な恐山が霞んで見えました。>>

- * ちょっと怖いですが、ぜひ行ってみたい場所です。
- * 怖いイメージの恐山と長閑な菜の花畑のコントラスト。平和な日常も一瞬にして三途の川が待っている。現実のパンデミックの災禍を結びつけて考えてしまう。



店先の緑の丘は菜の畑 梵木

- * 皿から菜畑が広がる。
- * 旅先で立ち寄ったレストラン。眼前の風景は見渡す限りの菜の花が。春の休日を満喫ですね。
- * イマジネーションがいいですね。



暗き世にひとびと癒す菜花かな 千泉

<< 福岡の友人が送ってくれた写真です。
外出規制の中、癒されました。>>

- * 花の力、気を信じるので、その通り！と納得。
- * 自然の風景を眺めると、やはりホッとします。
- * 今やコロナ疲れが蔓延。存分に自然に触れる機会が待ち遠しい。
- * 私もとて癒されました。この時期は一面の菜の花を見ると気持ちが明るくなるのに、．．． 外出自粛なのでこの目で見ることが出来ませんでした。残念です。



俳句 投票数：31



撮影：準坊

一席

夕やみに菜の花色の大地あり 千泉（9 票）

<< 車中から見た広大な菜の花畑に感動しました。>>

- * 夕方の薄暗い中で見る菜の花。陽を浴びていればもっと感動したでしょうね。
- * 圧倒的な風景だったのでしょう。
- * 菜の花畑でなく菜の花色の大地 としたことで広さも含めている。
- * とても素敵な光景が、目に浮かんできます。幸せな気分できっとよい夢を見られそう。
- * 広大な所でしょうね。菜の花が一面に咲いていたらどんなに綺麗でしょう！
- * 薄暮の中に瞬時にポツと浮かぶ一面の黄色に、感動した気分が良く伝わります。
- * ヨーロッパの旅した時、見渡す限りの菜の花畑を目にしたことを思い出しました。
- * 今年行けなかった理由は、他にもありました。父にももう少し元気できれいな景色を見てもらいたかったなと思います。

佳作（令和2年4月号掲載順）

菜の花畑 中の迷路に子等の声 昼寝覚

<< 菜の花畑の中に作られた迷路では子供たちが遊んでいましたが、姿が見えません。>>

- * 花と子どもの力を感じる句です。
- * 子供のころの遊びを思い出す。菜の花は本当に背が高い。
- * 子供達の歓声、すれ違う人と笑顔の交換。平和の暮らし。

食べ忘れ菜の花キレイ温か朝 梵木

- * 「食べ忘れ」というともう調理された菜の花ですか？花を楽しむように水に活けた菜の花でしょうか？
- * 朝食のテーブルに、菜の花の切り花が、しばし食を止めて季節を味わう。

お揃いの帯締め並ぶ花菜買い 久芽

<< スーパーの棚にも春を呼ぶ菜の花が並びました。>>

- * 菜の花の可愛さをよく表現してます。そわそわ、仲良くお喋りしながら並んでいるようです。
- * ユーモラスな句で面白い。
- * ひな祭りに飾る菜の花を求め、可愛い姉妹が着物姿でお買い物姿。懐かしさを覚える童謡のような句です。
- * 作者の感性が良いな—と思いました。

咀嚼（そしゃく）する夕餉の菜花辛子漬け 北切雀

<< ツンとくる菜花の辛子漬けと戦う気分。>>

- * 菜の花の辛子あえを食べると、春の訪れを感じます。
- * 菜の花の定番、すぐに浮かぶ季節のレシピですよね、春の訪れを味覚で知る幸せあります。
- * 私もシャキシャキと食べているつमोरの エア食。
- * ほのかな苦味と辛味と花の香り。すぐにでも辛子漬けを食べたい気分になります。
- * 大人になってから好きになった味ですね！戦いながら成長とともに美味しさがわかるようになったのかな？

作者：そうですね。父は辛いと天を仰いでしばし。なぜそうまでして食べるのか不思議でした。

花菜散る笑い遺して喜劇王 池福楼

<< 春爛漫にコロナに敗れてバカ殿が逝ってしまった。>>

- * こんな句が読みたいと感じました。

花菜風下校チャイムを運びくる 準坊

<< 菜の花畑に下校の子等の声が聞こえてくる。>>

- * 上記1の「菜の花畑」に似た句ですが、子供の声というのは時には煩いけれどいいものです。
- * 早くコロナが終息して、子供たちが外でたわむれる声が聞きたいものです。
- * 花菜風どんなにか気持ちの良い風でしょうね。チャイムの音も運んで、良いですね。
- * 春の夕方は陽が伸びてくる。下校する生徒の後ろに夕陽に染まる校舎と、菜の花が浮かんでチャイムの音と重なり心に響きます。
- * のどかな田舎の学校を彷彿させます。

短歌

久芽 パンくんに別れも言えず旅立ちて笑顔も優し変なおじさん

<< 志村けんさんを偲んで。>>

- * あの朝日歌壇でも何首も投稿された志村けんさん。この歌もこの人物のキャラを十分に伝えている哀惜の歌ですね。今後も久芽さんの短歌の投稿が楽しみです。

準坊

北風を
待ちて船出の
熊野灘
補陀落渡海
悲しからずや



北風を待ちて船出の熊野灘
補陀落渡海悲しからずや

<< 熊野を訪ねた時に撮った写真です。補陀落渡海を思い出しました。>>

- * 補陀落を目指した僧の逸話をこの歌で知ることが出来、深い感銘を覚えました。さすがに旅慣れた作者の造詣の深さに感心します。

北切雀 菜の花の海さざめきて泳ぎたし長けたる春の黄の魚（うお）となり

<< 自宅の近くに広大な菜の花畑がありますが、今年は不要不急外出禁止。早く自由に動けるようになりたい。>>

- * 菜の花の海に飛び込んで泳ぎ回りたい…。この豊かな想像力と下の句の「黄の魚となり」の7音が特に素晴らしい。

iSAMU 2 点

* 写真投稿二枚とも素敵でした。



氏邦桜

鉢形城址に咲く北条氏邦に因んだ桜です。



花海棠

<< 3月29日、時ならぬ雪に見舞われました。>>

* この日はイギリスも雪でした！趣が変わって無残ですがきれいですね。

- * 令和2年水無月6月は北切雀から「郵便」、文月7月はiSAMUさんから「百合の花」と出ています。
- * 令和2年皐月5月号の作品の写俳、俳句の中で「いいね」と思われた2作品の番号を投票して下さい。
- * 句とは別に、写真として特にいいと思われる写俳作品がありましたら「写真いいね！」として投票下さい。
- * 投票しなかった作品へのコメントも遠慮なくお寄せ下さい。短歌、川柳也大歓迎です。
- * 令和2年5月号への投票、6月号作品への投稿の締め切りはともに6月20日です。
- * 随想、珍事報告など書き込みの他、読者さんからの写真や句の投稿、兼題提案もお待ちしています。

「写楽句会」(五十音順)

池福楼、iSAMU、一枝、北切雀、準坊、隅っ孤、沈丁花、千泉、久芽、昼寝覚、梵木

筆責：北切雀 校正：準坊、池福楼

写楽句会 連絡先：kinuko_thompson@hotmail.com

© 2020 Sharakukai

または <http://3ban.nobody.jp/syaraku/syaraku.html>
四季の森空間 <http://isamusouma.web.fc2.com/>